

症例 63歳 男性

診断 急性冠症候群

既往 CABG 術後(LITA-LAD patent)、LCx は CTO、慢性腎不全で血液透析中

経過 冠動脈造影では RCA#2-3 に石灰化を伴う90%病変を認め、同病変を ROTA1.5mm で ablation した。ROTA 後にマイクロカテを進めようとしたが病変を通過しなかったために、横からもう1本のワイヤを平行に進めていた。手技の最中、ROTA ワイヤの先端部分が RCA#3 に引っかかるように断裂した。

ディスカッションの内容

1, ROTA ワイヤ断裂の原因は？

ワイヤが血管の石灰化に捕まっているところで無理に引っ張った可能性も考えられる。しかし術者はそれほど力を入れていなかったようである。ROTA 施行前の画像では ROTA ワイヤの先端は血管の末梢まで入っておらず、位置が非常に浅かった。このワイヤの先端の位置を直さずに ablation してしまったことがワイヤ断裂の原因になったと考えられた。

2, この後の処置はどうすべきか？

血管内にワイヤの先端を残したままであっても血流を障害していなければそのまま放置する選択も考えられた。しかしワイヤ部位に血栓を形成する可能性も指摘された。最も有効と思われたのは、同部位へステントを留置し、押さえ込むことというアイデアである。また血管内異物回収デバイス、スネアを使用してワイヤを絡め取るというアイデアもあったが、手技が難しいため成功するとは限らない。

実際の顛末

スネアにて断裂したワイヤ先端の回収に挑戦、成功した。